

委員会の動き

○教育民生常任委員会

教育民生常任委員会調査報告

教育民生常任委員長 重森 一宗

教育民生常任委員会は、8月19日に一般財団法人高知県環境センターで、浄化槽法定検査の必要性、(株)セネカにおいて高齢者住宅などの視察を行った。



一般財団法人高知県環境センター

近年、高齢化が進み生活環境の変化の中で、屋外の風呂・トイレ等を住宅内に改築が進んでいる。また、町の政策として自然環境・生活環境・交流事業が進められ、観光客・イベント・民宿等のお客さんを迎えるにあたって台所・風呂・トイレ等の改装が図られている。

生活用水の排水現状は、浄化槽設置は必要であるが、設置後において管理費その他の費用が5人槽で年間6万円近く必要となり、高額な負担が浄化槽設置の進まない一つの要因となっている。平成22年度法定検査実施状況では、大豊町内には475基の浄化槽が設置されている。設置された浄化槽の法定検査は392基受けており、率にして85.2%となっている。しかし、高知市においては3

万960基の浄化槽があるが、検査を受けたのは1万1千719基で、率にして37.9%となっている。

また、保守点検費用にしても、大豊町では2カ月に一度の点検を受けているが、法令では4カ月に一度でよいことになっている。この保守点検についても資格を取れば個人でも点検ができることとされている。

浄化槽設置に90万円～130万円の費用が見込まれるが、大豊町の施策として5人槽に33万2千円、6～7人槽に41万4千円、10人槽に54万8千円の補助金で年間10基程度の予算を計上しているが、これを超えても対応するとしている。

大豊町においては、各種事業を進める上において、浄化槽設置も大きな一つの施策として捉え、強く推進しなければならないと共に、併せて設置者に経費削減の対策が必要である。他県では設置後に年間1万円の補助金を支給している所もある。

(株)セネカの高齢者住宅整備の考え方は、利用できる建物があれば市内であれ、郡部であれ経営において十分採算が取れる。また、高齢者が第一に望む、住み慣れた地区で最後まで生活ができること、加えて雇用の確保、地産地消が可能となる。経営のポイントは従業員の給料設定を12万円台に抑え、人件費を厳しく削減する一方、デーサービスを行うことで、介護保険での収入が多いと思われる。本町において、この経営方法は社会福祉協議会との競合することから、本町へ誘致をする場合は、今後更に調査をする必要がある。

年金生活者において入所費用が高額であるが、ここでも制度を利用している。総部屋数147室、入居者は127人であるが、その内90人が生活保護の認定を受けた高齢者である。高知県では認定の上限が12万3千円であるが、普通9万円～10万円、家賃も3万2千円まで認められている。このセネカでも家賃が3万2千円に設定されており、食事サービス等も4万4千100円に統一され、生活保護認定金額より1万円程度安い金額の設定としている。

都会の高齢者は、国の制度である生活保護を受けることについて、抵抗が薄いと言われ、高知市内でも生活に支障が出れば速やかに申請し、条件が整えば順次許可される。本町の高齢者には家族・親戚・地区に対して、生活保護を受けることについて抵抗があると思われる。しかし、必要であれば制度を活用しなければならない。例えば8万円の施設に入居する場合、年金が5万円であれば8万円に足りない3万円の生活保護を受けることであり、グループホーム等についても適応する。

現在、本町の高齢者は一人での生活が難しくなると、町外の施設に行かなければならない。本町において食事サービス・デーサービス等を含めたこの対策は緊急を要し(株)セネカの例は今後の福祉行政に参考になるとと思われる。



(株)セネカの高齢者住宅

委員会の動き

○総務産業建設常任委員会

総務産業建設常任委員会調査報告

総務産業建設常任委員長 今井 安博

総務産業建設常任委員会は、8月23日に所管事項に関する調査として、休耕田を活用した放牧場とカラス捕獲檻の視察を行った。



カラス捕獲檻

休耕田を活用した放牧場は、本山町大石集落で肉用牛繁殖経営を営む原猛幸さんが、休耕田約2ヘクタールへ電気牧柵を張り、放牧場へは繁殖母牛13頭の内、妊娠牛約5頭を入れ、労力軽減や環境対策、農地保全などに効果を上げている。

ここでは、牛が担い手、草刈り隊として、日々活躍しており、鳥獣害防止、特にイノシシに効果があると言われている。

本町でも耕作放棄を活用した放牧場を計画しているが、課題は放牧経験豊富な妊娠牛の確保である。また、耕作放棄地には日陰になる樹林があるかどうか

ポイントとなる。近年本町においても耕作放棄地が年々増加しているが、耕種農家と肉用牛繁殖経営農家との連携を密にすることにより、美しい集落の景観を作るために、その強力な助っ人(牛)に期待するものである。

カラス捕獲檻は、土佐町で2カ所の捕獲檻が設置されている。今回は土佐町高須集落にあるカラス捕獲檻を視察した。檻の面積は約10㎡であり、約23羽ほど捕獲されていた。この檻での捕獲数は、平成20年度144羽、平成21年度502羽、平成22年度170羽であった。この檻での留意点は、おとりのカラスがいけないと捕獲できないということであった。問題点としてカラスの悪臭が発生することから、人家や町道などの道路沿いへの設置には十分留意をしなければいけない。近年土佐町高須集落近辺では、カラスが見えないと言われている。この檻の効果は絶大なものがあり、檻の発想には感銘を受けた。

編集後記

去る7月に東京都で開催された第74回町村議会広報研修会へ参加いたしました。議会広報は、議会を選出した主権者住民に対する議会の報告書であるとともに、住民と議会を結ぶ架け橋です。決して議員や議会のための広報誌ではなく、住民のための情報誌であると再確認をいたしました。私が議員になって議会だより「秀峰」の編集は、3回目となりました。編集の技術を高めて住民の目線で、硬いお役所文書ではなく、平易で分かりやすい見出しと記事の文書、レイアウトなどの紙面づくりに努めたいと思っております。



小川 智也 広報編集委員会

広報編集特別委員会

- 委員長 佐藤 徳治
- 副委員長 小川 智也
- 委員 三谷 幸一郎
- 委員 前野 由和
- 委員 都築 正光

【ご意見やご感想は】
大豊議会事務局

電話 72-0468 (直通) まで